

たかが川柳されど川柳（十五）

上野 一彦

新型コロナ世界を席卷す

わずか数か月で世界を一変させてしまった新型コロナ騒動。正式には新型コロナウイルス感染症（COVID-19）。これは戦争だといった世界の指導者がいたが決して大げさな表現ではなかった。一四世紀のペスト、ちょうど百年前の第一大戦中のアメリカから始まったスペイン風邪にも似た、見えない病原菌との戦いである。当時は今と違い、TVやインターネットなどによる圧倒的な情報もなければ、近代医学もまだ脆弱な中で戦いであった。人々はどれだけ恐怖に慄いた事だろう。

病原菌との戦いは、銃弾や爆弾の破裂音もない静寂の中に人々の間で伝播するのかを調査するのである。救助に赴くのなら理解しやすいが、その不幸な事実を研究の対象にするとはなかなか因果な研究だと思わぬでもなかった。

新型コロナひとの本性暴き出す

怖いのはコロナじゃないよコロナだよ

予測を超えた事態が起きると人々は思いもかけぬ様々な行動をとる。生存の危機感から生活用品を買いだめるために走ったりするのはもとより、そうした行動を予測して経済活動に結びつけようとする輩もいる。昨今はインターネットの発達によって情報の伝わり方も半端ではない。並みの頭の我々はいつもそうした人々の周辺でうろろろするのが常である。ドラッグストアのマスク売り場の前で、スーパーのトイレットペーパー売り場の前で、空の商品棚を見てそのフットワークの悪さのため息をつく。やっと手に入れた商品を自慢げにうろろしたくなる気持ちもわからぬわけではない。

東京オリンピックを強行すべきか、延期すべきか、中止すべきかの議論もかまびすしかった。マラソンを東京でなく札幌で開催するなんて言う話題がNEWSとして連日のように茶の間を賑わしたことが夢のようである。政治的思

での戦いであるだけに一層不気味である。近くは二〇〇二年に流行したSARSなど、歴史をたどれば正に人類の歴史は感染症との戦いであったかもしれないしかし、のど元過ぎれば熱さを忘れるのこともわざ通り、なんと我々は忘れやすい生き物だろうか。

このエッセイが出版される頃には多少は沈静化していることを願う。こうした事態の中で、人間の弱さというか、本性が垣間見えるのはまさに社会心理学の必要性の根源かもしれない。かつて大学時代の友人の一人が、デマや流言飛語を研究の対象にしていたことを思い出した。かれは地震とか、何か災害があると現地に飛んで、情報がどのよう

惑や自分のおかれた立場からのもつともらしい発言は裏が透けて見える。選手は金メダルを目指して、政治家はその経済効果に期待する。

オリンピック バッハ一人が指揮を執る

と言っているうちに、非常事態宣言が発せられ、オリンピックだけでなく野球もサッカーも何もかも延期もしくは中止になってしまった。あれから数か月、この混乱を静かに見つめなおす時間もあつた。

世界のリーダーたちも、当初大したことはない和高を括るものもいれば、国民の安全と経済や自分の再選を天秤にかけて右往左往するもの、科学的根拠を一途に信じて突き進むものなどさまざまであつた。国内にあつても、もしも自分が知事という立場ならどうするのだろうかなどと人間の判断の難しさを日々感じさせられた。

そうしたなか、臆面もなく自分勝手な行動をとる人たちもいれば、多くの方々は日本人らしい自粛の生活を送ったと思う。ただ、そうしたなかで十分な手順、手立てを講じる間もなく命を落とされた方々もいた。女優岡江久美子さんの死は、臨終にも、火葬にも立ち会えなかったご家族のことを考えるととても他人事とは思えなかった。

一言の礼も言えずに逝く無念

この句は、私から岡江さんとご家族に送る鎮魂の句である。確かに今回のコロナ禍はさまざまな面で災いを残した。それは人々の日常を大きく狂わせたという意味で百害であつたと思う。ただ私個人を振り返ると、圧倒的な自粛生活の中で、自分の残り少ない人生をさまざまに考える時間があつたこと、家族や友人を違った目で見ることができたことなど、わずかながら一利はあつたのではないかと述懐する。

改めて歴史を学ぶことの大切さと、そうしたことに無頓着な政治家を持つ国民の不幸を改めて感じた日々でもあつた。

本当のスローライフとは

一月の後半から間もなく半年、今回のコロナ騒ぎはたくさんの方の教訓を残した。リーダーたる方々の判断にもその方の資質を見る気がした。

判断は生命か、金か、再選か

経済も社会的生命と考えれば大切は大切ですが、人の命

ンバーであつたのに、毎日行くところがなかったのでせっせつと通うようになった。

そうした変化の中で新しい体験があつた。一〇年以上、細々続けてきたスイミングでのことである。それは突然やつてきた。身体を動かす喜び、気持ち良い水の流れを味わう中で、「そうか、ジョギングと同じように、楽な呼吸に合わせて泳げばいくらでも泳げそうだ。」

中学生の時に千葉で二キロの遠泳をやつてから、平泳ぎには自信があつたが、クロールは競泳であり格闘だった。その日から、毎回一〇〇mが日課となつた。一般の競泳の速度に比べるとおそろしく遅いペースだが、今の私にはこの三〇分強のペースがちょうどよく、軽い軽いジョギング並みなので、私には快適。

たかが川柳 されど川柳 (二〇二〇年上半期)

(川柳同人「ばらばらⅡ」「多年草」に発表した拙句を解説付きで載せています。)

一月

ばらばらⅡ 4号

もしかしてこれがそうかな認知症

やはり最優先であるべきだと思う。自分の人気とか、選挙のことしか頭がないリーダーを持った国民は東西を問わず不幸である。ところで長い自粛生活の中、次第に自分のリズム、ペースで生活し適応していく自分を発見する。テレワークもそれなりに新しい生活様式といえる。

朝目覚め味と匂いをまずチェック

チェックしてから子供のころの夏休みのように、ラジオ体操、いやテレビ体操に始まり、不要不急と言われればその通りなのだが、人の出の少ないうちの散歩は、特に老人にとつては体力維持のために必須の行動。わが家を中心に東西南北、普段見落とし、知らない場所が結構あるものと新鮮な喜びがあつた。たまたま私が住んでいる地域には、公園や寺なども多く、毎日のようにそれらを目標に歩き回つた。

全国民クルーズ船で漂流す

漂流するみたいな不安の日々でした。六月になつて急に経済の再建に舵をきられ、あつという間に一部、元の生活ペースに戻りつつあつた。ありがたかつたのはジムの再開で、それまでいつ辞めようかと思つたこともあつた不良メ

◇早めの夕餉を済ませ、TVの前でついうとうとした。気が付いて、家内に言つた「晩御飯は？」その時、家内目を丸くして「あなた！認知症が・・・」

まだスマホなんて時代がやがて来る

◇日進月歩ならぬ秒進分歩。パリ万博での夢物語が、百年後には実現している世の中である。やつとガラケイを捨て、なじんだ自慢のスマホもあつという間に同じくガラパゴス化するのかもしれない。

削除せず天国からのメール待つ

◇逝つた親友からの最後のメール、そしてアドレス。どうしても削除する気になれない。それがだんだん増えてくる。

題詠「もやもや」

疲れとか歳のせいとかヤブ医者は

◇体調がすぐれない。かかりつけの医者に行くと、簡単に「エイジング、年齢のせい」そんなことはわかつています。**答弁は皮肉たつぷりのはず**

◇国会中継。どうしてこうも外的に答えるのか。これが答弁術だとすれば歳費を払う国民がばからしい気がする。質問も質問かもしれないが。

喋らずに心にしまつこれも技

◇雄弁は銀、沈黙は金。歳を重ねるとその意味がよくわ

かつてきます。黙って胸にしまし、それも歳のなせる業な
のでしよう。

多年草 125号

誰裁く息子手にかけて悔いる父

◇引きこもりの我が子を、世間に迷惑をかけそうだと思
あまつて手にかけてた父親。聞けば私たちとほぼ同年。期待
をかけた息子が中学で挫折。不登校、家庭内暴力、婚約を
破棄された娘の自殺、妻の避難別居。まさに生き地獄です。
川柳にはなりませんから離れません。

賀状でのやり取りさえも絶えし友

◇年賀状での付き合いも断ってきた友人。年々減っていく
賀状を前に自分でもこれからの付き合いどうしようか思案
しないわけでもないがその踏ん切りがつかない。

罪深い私の過去をシュレツダー

◇大切な文章もあっさりシュレツダーしてしまうわが国の政
治家。各々の罪深さこそシュレツダーしなければ。もちろん
私自身も。

題詠「約束」

外交の手腕約束破ること

◇外交手腕とは何か。信義とか、人間性よりも、自国ファ
ースト。そして上手に約束をたがえ破る。歴史とは勝者の

記録という言葉が痛い。

あの時に契ったころ寿命くる

◇からだの前にも心にも寿命があるような気がする。あのみ
ずみずしい日々の思い出をいつまでも忘れずにいたいもの
です。

カレンダー指差し呼称忘れずに

◇ドタキャン嫌いの私だったはずなのに、「あ！いけね
え」が増えてきた。カレンダーを前に、何度も確認。

二月

多年草 126号

ありがたう言い残したいひとが増え

◇徒然、人生を振り返る日々がある。人々の厚情の中で今
日までやってこられた。鬼籍に入ってしまった人も多い。
足を向けて寝られない人も大勢いる。そうした思いからの
一句。

ヤジひとつ水脈たどり野党湧く

◇杉田水脈という、少なくとも名前は素敵な与党の女性衆
議院議員がいる。委員会で夫婦同姓を望まない人について
の野党の質問に、「だったら結婚しなくていい」とヤジを
飛ばした。結局ヤジの出所が突き止められ、追及されるお

粗末。名の通り、水脈を辿られた。駄洒落かな。

いさぎよし大和大関豪栄道

◇大関豪栄道、ついに引退。張り手、カチ上げ、そして休
場と、ただただ勝ちにこだわる力士もいるなかで、さすが
大和力士。

題詠「絞る」

税金を絞り取られてばら撒かれ

◇税金を自分の金でもあるかのようにばらまく政治家がい
る。お前の金ならそれでもいいが、税金は国民の汗と涙の
結晶なんだよといいたい。

絞られてオカラになったぼくの脳

◇散々この世の重しで絞られて、私の脳みそはすっかりオ
カラ状態なんです。どうぞよろしくね。

絞られて粹な凶柄に藍模様

◇藍染つて糸で絞りに絞って藍液につけ。晒し広げると見
事な模様が浮かび出ます。やったことのない人は何のこ
かわからないだろうな。

三月

ばらばらⅡ 5号

肩書きが消えて周りが見えてくる

記録という言葉が痛い。

あの時に契ったころ寿命くる

◇からだの前にも心にも寿命があるような気がする。あのみ
ずみずしい日々の思い出をいつまでも忘れずにいたいもの
です。

カレンダー指差し呼称忘れずに

◇ドタキャン嫌いの私だったはずなのに、「あ！いけね
え」が増えてきた。カレンダーを前に、何度も確認。

二月

多年草 126号

ありがたう言い残したいひとが増え

◇徒然、人生を振り返る日々がある。人々の厚情の中で今
日までやってこられた。鬼籍に入ってしまった人も多い。
足を向けて寝られない人も大勢いる。そうした思いからの
一句。

ヤジひとつ水脈たどり野党湧く

◇杉田水脈という、少なくとも名前は素敵な与党の女性衆
議院議員がいる。委員会で夫婦同姓を望まない人について
の野党の質問に、「だったら結婚しなくていい」とヤジを
飛ばした。結局ヤジの出所が突き止められ、追及されるお

◇退職とともに肩書が消える。一抹の寂しさはあっても何
か解き放たれた気がする。エッセイストとか、川柳作家な
どという、新肩書をつける度胸も実績もない。しかし無位
無官、そのほうが周りが見える気がする。

負けん気が減って味あう穏やかさ

◇負けず嫌いが身上だった気がする。それで生き抜いてき
た気もする。反面、そうした世界の外に身を置くようにな
った自分がいつのまにか穏やかになっている。

郵便を仕分けてみればみんなゴミ

◇ポストから郵便物を取り出し、整理してみるとDMや広
告や、封を切るまでもなくゴミ箱に直行するものが増えて
きている。でもそれがかすかな社会とのつながりなのかな。

題詠「仏」

三度ではとても済まない罪深さ

◇仏の顔も三度とはよくいったものだ。でも振り返ってみ
れば、三度どころではない気がする。人間が生きるという
ことはそうしたものよ。

この世では知らぬが仏通します

◇凶々しいというか厚かましいというか。知らぬが仏でも
それでほっとされる方もまわりにはいるのではないかな。

子だくさん千手観音でも足りぬ

◇子育ては大変。ネコの手も借りたい。千手観音を見ていと母の気持ちが具現されているような気がする。

多年草 127号

全国民クルーズ船で漂流す

◇中国の武漢で発症したという新型コロナウイルスは、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の乗客からも見つかり、やがて全国に広がっていった。まるで日本という国自体がクルーズ船となって漂流し始めた。

咳一つ部屋の空気が凍りつく

◇バスや電車のなかだけでなく、部屋の中で咳を一つすると、すわコロナとみんなに緊張が走る。

ひきこもりずっと前からテレワーク

◇新型コロナウイルスの蔓延以来、自宅での自粛、テレワークが一般化した。一億総引きこもりというわけで引きこもりが目立たなくなった。

題詠「苦手」

苦手じゃない無知なんですよその敬語

◇敬語も謙譲語もよくわからない若者が増えてきた。ため口ともいわれるが、使い方を知らない、まさに無知の象徴なんです。

天国にも苦手な奴がいそうだな

◇だんだんあの世が近づいてきている。どうも地上では苦手な奴が何人かいたが、天国にもいるんじゃないかと心配になる。どうせあんたは地獄だろうって？

ソリあわぬ素晴らしいながらよい友に

◇友達にもいろいろある。でもそんな奴でもいつの間にか良い友になっていくことも多い。昔から仲の良いほど喧嘩するともいわれます。

四月

多年草 128号

四月一日アベノマスクの日とします

◇こういう時事川柳の命は短い。エープリールフルにしても実にばかばかしい施策でした。

オリンピックやるもやらぬも金のため

◇オリンピックは何のためにやるのかと問われれば、その経済効果を上げる人が多い。そしてオリンピックはさらに商業主義に陥っていく。

カタカナ語蔓延させる新コロナ

◇パンデミック、ロックダウン、オーバーシュート、クラスタ、ステイホーム、ソーシャルディスタンス・・・

カタカナを使うとなにかいいことでもあるのかな。

題詠「洗う」

洗えるマスク二枚配布こそ笑点

◇アベノミクスならぬアベノマスクは人気回復策だったようだが笑いもので終わった。意地でも小さなマスクを総理がかけ続けたが、他の閣僚は追従せず、思い思いにマスクファッション。

おにぎりを洗いあわてるアライグマ

◇アライグマがおにぎりを洗う場面を想像したらなんだかおかしく、「あ」の語頭音も気に入っての一句。

遺書みてもミソギ済んだと付度す

◇付度による公文書改竄、そして負わされた公務員の自殺。この一軒だけでも万死に値するのではないだろうか。

五月

ばらばらII 6号

すまなかつたこの一言をあのひとへ

◇思いもかけぬコロナ禍で、人生を振り返る時間がたつぷりあった。「すまなかつた」の一言をかけたひとが脳裏をよぎる。

カラオケも少々下手が愛される

天国にも苦手な奴がいそうだな

◇だんだんあの世が近づいてきている。どうも地上では苦手な奴が何人かいたが、天国にもいるんじゃないかと心配になる。どうせあんたは地獄だろうって？

ソリあわぬ素晴らしいながらよい友に

◇友達にもいろいろある。でもそんな奴でもいつの間にか良い友になっていくことも多い。昔から仲の良いほど喧嘩するともいわれます。

四月

多年草 128号

四月一日アベノマスクの日とします

◇こういう時事川柳の命は短い。エープリールフルにしても実にばかばかしい施策でした。

オリンピックやるもやらぬも金のため

◇オリンピックは何のためにやるのかと問われれば、その経済効果を上げる人が多い。そしてオリンピックはさらに商業主義に陥っていく。

カタカナ語蔓延させる新コロナ

◇パンデミック、ロックダウン、オーバーシュート、クラスタ、ステイホーム、ソーシャルディスタンス・・・

◇日本発のカラオケ。ご本人は気持ちよくみんな歌手気取り。でもそんなに上手になるとかえって少々下手なほうが愛嬌がある。

異邦人それは戦争知らぬ子ら

◇気が付けば平和な時代が続いてきた。それなりに幸せなことである。しかしわれら戦中戦後を経験した昭和世代は、戦争を語り継ぐ責任があるように思う。平成、令和の戦争を全く知らない子どもらは昭和世代から見れば異邦人のような気さえする。

題詠「オリンピック」

参加するだけじゃだめだとい本音

◇格好のお題も中止かもしれない一年延期の中で色あせてしまう。金と重荷を背負わされる選手もいる中、昔は参加することに意義があるといわなかったかな。

オリンピックバツハ一人が指揮をとる

◇ICOの会長バツハさん、絶対的権力を振り回す姿はオーケストラの指揮者のようでした。延期となるとこの句も迫力なくなります。(解説は既出 p49)

札幌でマラソンコース迷走す

◇東京オリンピックなのに、突然マラソンは札幌で。挙句の果てに延期。その決定をめぐりこれこそ迷走でしたね。

多年草 129号

朝目覚め味と匂いをまずチェック

◇コロナ禍関連の句のオンパレード。高齢者、基礎疾患者はビクビクものの毎日。朝目覚め、最初にするのは味と匂いのチェック。(解説は既出 p.50)

何事も終わりと知っても

◇どんなつらいこともいざれ終わりが来るとは知っていてもコロナの影響被害は甚大。その対策もダツチロール。いつたいつ何時になつたら終わるのだろうか。

一言の礼も言えずに逝く無念

◇お笑いタレント志村けんさん、女優岡江久美子さんのコロナ感染の死は多くの人にショックを与えました。しかもその病床、別れ、火葬まで、家族は立ち会えなんてあまりにも悲しい。この句は岡江さんとその家族への鎮魂の一句。(解説は既出 p.50)

題詠「眺め」

薄絹を通すからこそ増す魅力

◇裸より余計魅力を感じるのは想像力の勝負かな。

遠くから眺めて愛でる方がいい

◇何事も遠くから愛でているほうが安全。近すぎると火傷

しますからなんて、そんな修羅場に出会ったこともなかったのに。

感染のグラフ眺めて息を呑む

◇コロナに席卷される毎日。今日は何人感染のグラフに一喜一憂。何か大事なことを忘れていたような気もしながら。

六月

多年草 130号

食い倒れ太郎のようにアベ話す

◇プロンプターいかにも何も見てないふりをして話す記者会見。そのぎこちない動きが大阪道頓堀の食い倒れ太郎の人形のように見えてきました。

もぎたてのキュウリ齧って夏が来る

◇川柳だか俳句だかわかりませんが、季節感あふれる一句。自分としては会心の一句だが、川柳としての評価はどうか。

ありがたいアベノマスクを眼帯に

◇小ぶりの誰も付けない誰も喜ばないアベノマスク。全く官僚の思い付き。せめて眼帯代わりになるのではという意地悪な一句。

題詠「応援」

ガンバレが重荷なんですモヤシっ子

◇親や先生は「がんばれ」の大声援。ひ弱に育っている現代っ子にはその応援が重荷。そして不登校になつたりするのでは。

無観客冷えたまま出すフルコース

◇コロナの影響で無観客試合。グラウンドは何も変わらないのですがスタンドはまるで練習時のよう。それを何に例えるか。冷え切ったフルコースの料理に例えてみましたはどうでしょう。

文春砲ハッシュタグに威力増す

◇長期政権とはいいながら、だらしな野党にも助けられたようです。そんな中、気を吐いたのは週刊誌。＃(ハッシュタグ)を付け、インターネットで意見を言ったりしたくもなりません。

(丁)